

2023. 6. 7

No.068

2023年度夏季手当に関する申し入れ

怒

**会社回答は、現場の努力を
踏みにじるものだ！**

本日出された会社回答は、私たちの求めているものとは大きくかけ離れたものです。私たちはコロナ禍の3年間、大変な我慢をしてきました。それは「融合と連携」「変革」の名のもと、一人ひとりの社員の業務量が増えたこと、物価が上昇している中、夏季・期末手当が低額であったことによる生活苦です。特に2021年の定期昇給カットは、生涯賃金に関わる事で生活設計に大きな影響を与えました。その様な中でも現場の社員は黒字化へ向け、一丸となって取り組んできました。

しかしながら今回の回答は、この間の社員の努力に全く応えていないばかりか、この間の努力を踏みにじるものです。これまでの会社の主張は赤字を解消する、つまり「収益」を黒字転換させる必要があるとのものでした。ですので、現場では収入を増やす施策を行い、黒字化を目指してきました。しかし、会社は突如「利益」が目標に達していないとの主張をしてきました。「利益」は収入だけでなく「費用」の要素も関係します。会社は「TAKANAWA GATEWAY CITY」開業に向けた開発費に対する投資により、フリーキャッシュフローがマイナスに転じる事が明らかになっています。つまり、コロナ前の9割まで収益が回復しているにもかかわらず「利益」が目標に達していないのは、設備投資につき込んだ経営判断が原因です。また、将来に対する投資として設備投資が必要であるならば、同じく将来の会社を創り上げる社員への投資も同じぐらい重要視すべきです。それなのに開発・設備には投資し社員へは還元しないのは、社員を大切に思っていないことの表れです。「社員・家族の幸福の実現」というのならば、現場の社員の努力にしっかり応えるべきです。

経営判断の誤りを現場の社員へ押し付けることは絶対に認められません！